

馬込から気持ちのよい風が吹いてくる

# 萬福寺だより

第33号

2019年夏号 / no.33 / 令和元年7月1日発行

発行 / 曹洞宗 萬福寺護持会

HP <http://www.manpukuji.or.jp>

## ご家族そろってお出かけください

- <sup>うらばんえ</sup>盂蘭盆会法要 (お盆精霊迎) 7月13日(土)
- <sup>だいせがきえ</sup>大施餓鬼会法要 7月23日(火)
- <sup>あきひがんえ</sup>秋彼岸会法要 9月23日(祝・月)

※行事写真は昨年のものです



新盆供養



住職による施餓鬼棚での供養



秋彼岸で講談を楽しむ

イベントのご案内 (4面参照)

10.2 研 研修旅行

10.6 回 するすみ祭





# 萬福寺に残る“馬込文士村”の面影

## 室生犀星の句碑誕生のいきさつ

「ふるさとは遠きにありて思うもの……」とうたった詩人で小説家の室生犀星の句碑が境内に建てられ、除幕式が行われたのは、平成7年（1995）この年の1月に阪神・淡路大震災が発生）の12月2日でした。今から24年前のことです。同年11月29日付の読売新聞が、句碑誕生の経緯を次のように伝えています。

——大正時代、多くの詩人や作家たちは1923年（大正12年）の関東大震災を期に、当時は農村だった大田区馬込付近に移り始めた。

詩人の北原白秋、三好達治、萩原朔太郎、小説家の山本有三、川端康成、石坂洋次郎、山本周五郎……。

犀星も32年（昭和7年）に現在の南馬込一丁目に住居を構えた。

犀星の長女で作家の室生朝子さん（大田区山王二丁目）は「父はここで、時計のように規則的な生活をしていました。朝6時に起きて、午前中は仕事。夜8時にはせかされるように床についていました」と思い出す。

大田区はこの地区を「馬込文士村」として散策マップをつくり、「村」にちなんだ菓子も販売されている。

写真（上）は当山から東へ歩いて3分にある馬込自然林区民緑地。昔の馬込を偲ばせる風景が残る。

ところが戦災があったりして、往時を伝える建物はなく、住居跡を示す表示が各所にあるだけだ。

朝子さんは「来ていただいたいても、何も文学に関連するものがないので」と、地元で暮らしているだけに寂然としないものを感じていた。

朝子さんの働きかけもあり、旧犀星宅に隣接する萬福寺（安本利正住職）が「寺は文士村の中心にある。往時をしのぶものを」と2つの句碑を作った。朝子さんが馬込にちなむ句を選び、周りには犀星宅の庭にあった30個余りの庭石をあしらった。……文学作品が東京で碑になったのは初めてという。

犀星宅があったのは当山の西側、お墓に面して現在、赤い外壁のマンションが建つ所です。句碑は、本堂の西側、裏参道へ抜ける左角と、鐘楼門の脇にあります。ご来山の際には、ぜひご覧ください（敬称略）。

室生犀星【むろう さいせい】  
詩人・小説家。明治22年（1889）金沢生まれ、昭和37年（1962）没。主な作品には『愛の詩集』『抒情小曲集』『幼年時代』『あにいもうと』『杏っ子』などがある。昭和3年（1928）大森谷中（現・山王四丁目）に越してくる。同7年（1932）馬込町東三丁目（現・南馬込一丁目）に新築移転。以後、没するまで在住。馬込小学校、馬込第三小学校、萩中小学校の校歌などを作詞した（参考『馬込文士村ガイドブック』大田区立郷土博物館発行）。



「陽炎」  
葱の皮  
はがれしままに  
かぎろひぬ



「笹鳴」  
笹鳴や  
馬込は垣も  
まだらにて

「かぎろ（う）」は「かぎろう（陽炎）」に同じ。春のうらかな日に、ちらちらと立ちのぼる気のこと（春の季語）。馬込の葱畑を読んだもの。

「笹鳴（ささなき）」とは、冬にウグイスの鳴き声はまだ調わず舌鼓を打つように鳴くこと。その鳴き声（冬の季語）。垣根もまだらな新興住宅街の馬込の風景と掛け合わせて読んだ。



### 開催行事報告

## 春彼岸会法要

平成31年3月21日（春分の日・木）

### 落語を鑑賞し彼岸会法要を営みました

この日午前中、東京に桜の開花宣言がなされた3月21日、午後1時から三笑亭夢太郎師匠による落語二題「長屋の花見」、「竹の水仙」を大いに堪能したあと、緋恩衣(※)に立帽子着用と正装の安本由道ご住職を導師に、厳かに春の彼岸会法要が営まれました。

午前中の雨も上がり、お墓参り日和となったためか、本堂の通路にも椅子が置かれ、いっぴになく大勢の檀信徒が参列し先祖供養を行いました。

#### ※緋恩衣（ひおんえ）

「緋色」とは黄色味のある鮮やかな赤色のこと。一般に「茜色」は「やや暗い赤」、緋色は「鮮やかな赤」のイメージとして区別されます。緋の衣は、晋山式結制を経て大和尚となると、被着することができ、また宗門への今日までの功勞が認められることによって被着が許されるものを「緋恩衣」といい、被着時に「立帽子」を着用することができます。



緋恩衣に立帽子を着用した正装姿の安本由道ご住職



参列者の皆様でいっぱいになった本堂



法要に先立って落語を披露する三笑亭夢太郎師匠

## 第1回やすらぎの写経会を開催

令和元年6月8日（土）

### 穏やかなひと時を過ごしました

新年度第1回やすらぎの写経会が6月8日（土）午後1時から開催されました。鈴木百合子研修委員の指導で、参加25名の皆様が「般若心経」を心静かに写経しました。

次回は、11月9日（土）に開催されます。お誘い合わせのうえ、ご参加ください。



小学1年生もご両親と参加しました

### 【萬福寺護持会】総会を開催しました

萬福寺護持会総会が6月10日に開催され、前年度事業報告・同決算、新年度事業予定・同予算がそれぞれ原案どおり承認されました。山門内、正面階段左脇の掲示板の報告をご覧ください。



萬福寺の公式ホームページをご覧ください。

馬込萬福寺  検索 <http://www.manpukuji.or.jp>

萬福寺の行事はどなたでも参加できます。

INFORMATION

仏事のご案内 ご家族皆様で参加しましょう

7.13 (土) <sup>うらばんえ</sup> 盂蘭盆会法要 (お盆精霊迎)

正午 (12時) から新盆法要、  
1時から法話、2時から法要

ご家族、ご親族そろって、ご先祖様の御霊をお迎えにご来山ください。



7.23 (火) <sup>だいせがきえ</sup> 大施餓鬼会法要

午後1時から法話、  
2時から法要

大勢の僧侶が勤行する当山最大の行事です。お誘いあわせのうえお越しください。



9.23 (祝・月) <sup>あきひがんえ</sup> 秋彼岸会法要

午後1時から法話、  
2時から法要

秋分の日、ご先祖様を敬い偲び、今ある幸せに感謝しながら、ご参詣ください。



11月上旬予定 <sup>きしぼじんきがん</sup> 鬼子母神祈願法要

日蓮聖人から寄進されたと伝わる鬼子母神像を拝観し、子供の成長、家内安全を祈ります。



イベントのご案内

10月2日 (水) 日帰りバス研修旅行

山梨県都留市・泉福院を参詣し沼津港を巡る旅

自然豊かな富士山のふもと、山梨県都留市の曹洞宗・水辺山泉福院 (ご住職: 雨宮徹哉老師) を参詣し、沼津港で昼食を堪能する日帰りバス旅行です。詳細とお申込みは別紙をご覧ください。



10月6日 (日) するすみ祭

午前10時から、山門前駐車場を会場にチャリティイベントを企画しています。詳細は後日、当山入口の掲示板でお知らせします。



※昨年の「するすみ祭・子ども動物園」

御葬儀・法要の連絡は 萬福寺本堂総受付まで

法要は「追善法要」ともいい、故人が浄土で安楽であるようにと願いを込めて行うものです。年忌法要は葬儀とは違い予定が立てられます。できれば半年前、少なくとも3カ月前には準備を始めましょう。

御葬儀・法要・諸行事のお問い合わせ・お申し込み

萬福寺本堂総受付 ☎03-3771-2025

※梶原殿の会場使用につきましては、他社の葬儀社も利用できます。

編集後記

「馬込文士村」という呼称は、<sup>さかきやまじゆん</sup> 榊山潤の馬込文士交遊録の書名『馬込文士村』(昭和45年・東都書房刊) で使われたのが最初です。それからほぼ50年、すっかり馬込の代名詞として定着しました。萬福寺は、馬込文士村の主要な住人であった小林古徑画伯や詩人・小説家の室生犀星旧居と隣りあっているところから、馬込文士村のほぼ中心にあると言ってもよいでしょう。文士村のゆかりの一つである境内の犀星句碑を今号で紹介しました。お盆やお施餓鬼、お墓参りでご来山の折に、ぜひご覧ください。

萬福寺護持会では、皆様に楽しんでご参加いただけるよう、行事をいろいろと企画しております。年三回の写経会もすっかり定着いたしました。今年は日帰りの研修旅行もごさいます。お誘い合わせでのご参加お待ちしております。